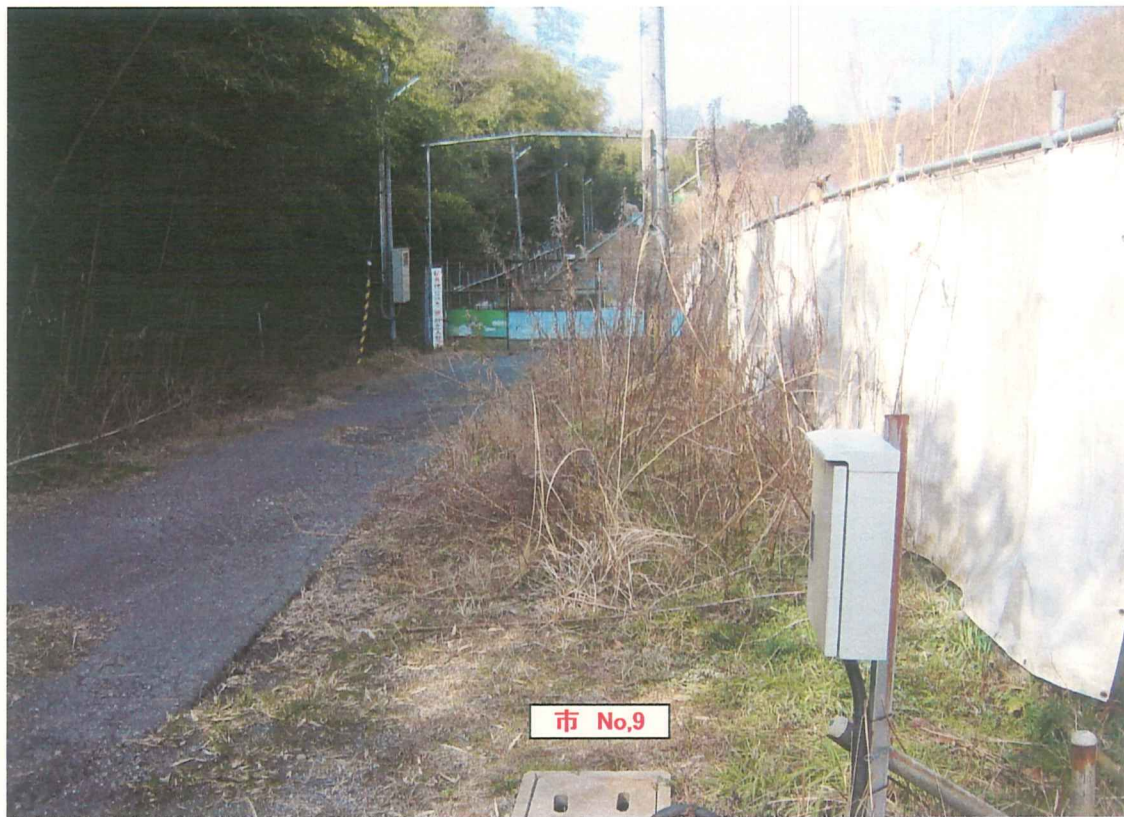
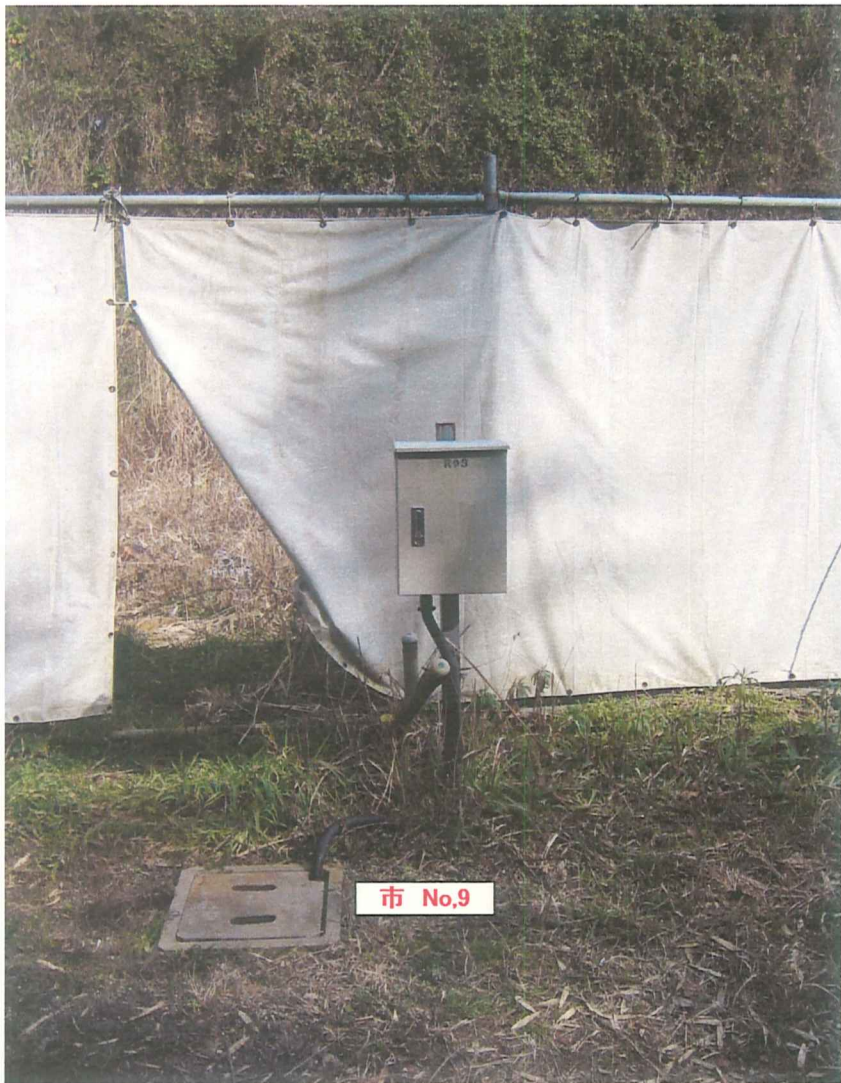




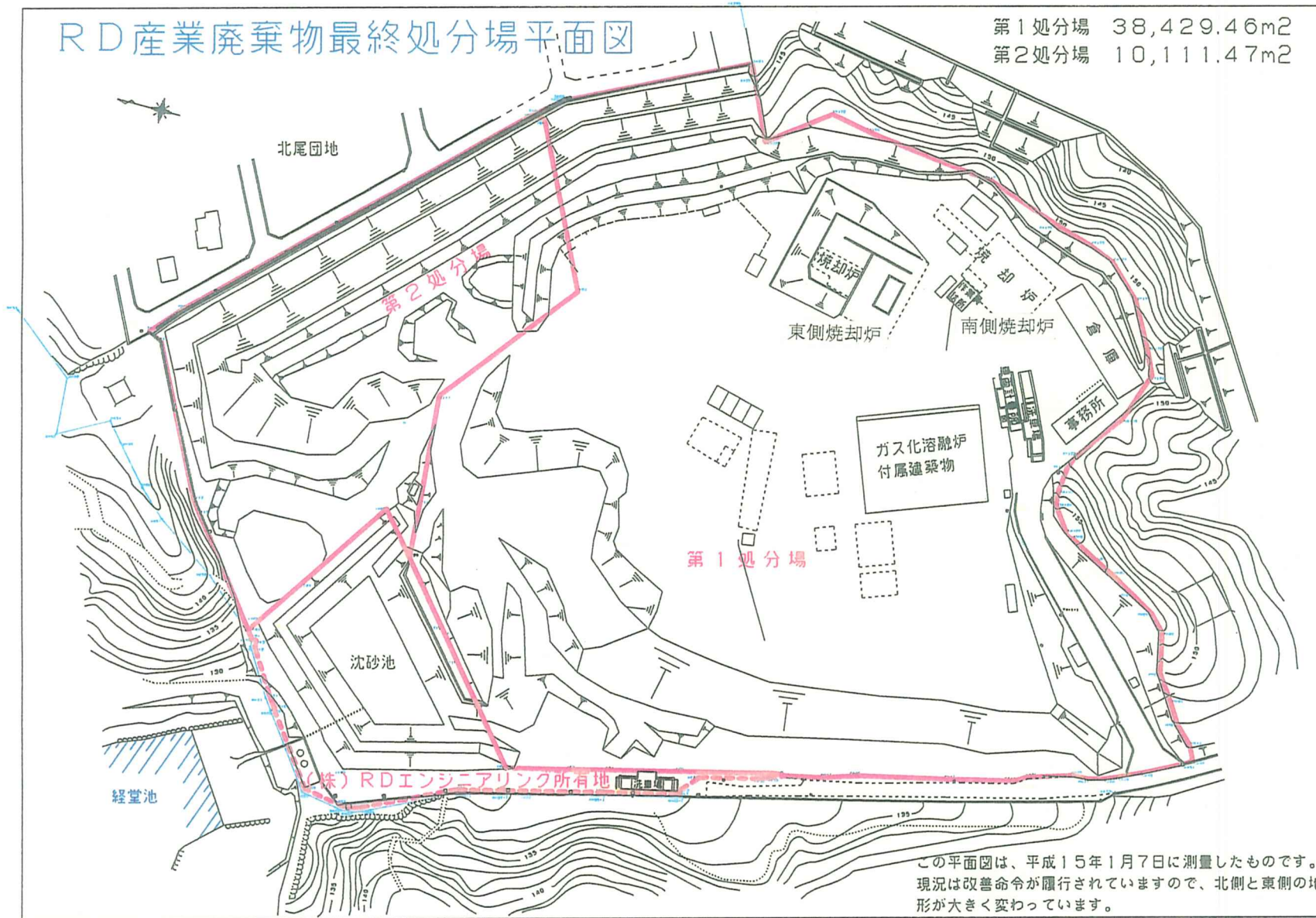
市事前No.8観測井戸全景



市No.9観測井戸全景

R D 産業廃棄物最終処分場平面図

第1処分場 38,429.46m²
 第2処分場 10,111.47m²



この平面図は、平成15年1月7日に測量したものです。
 現況は改善命令が履行されていますので、北側と東側の地形が大きく変わっています。

R D 最終処分場の既存焼却炉について

1. 東側焼却炉（㈱拓洋技研 TAK-5000）

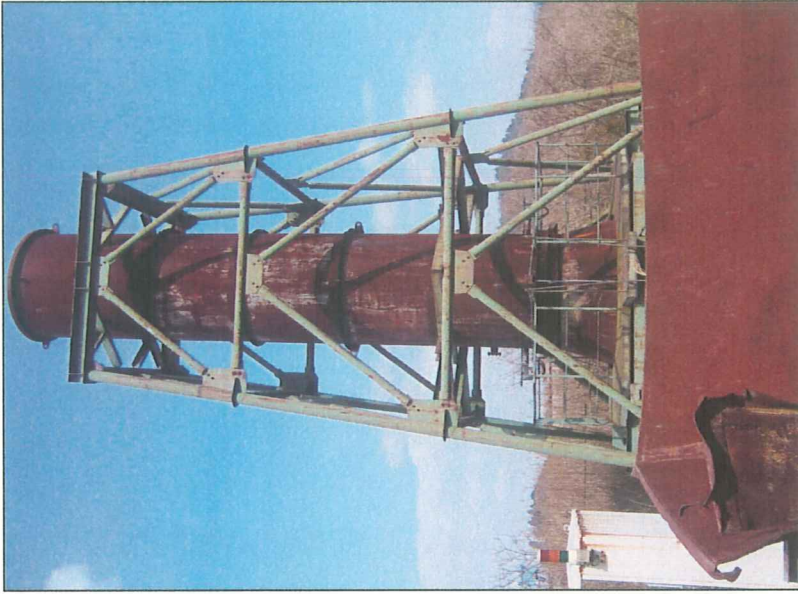
平成 7 年 10 月 31 日 産業廃棄物処理業変更届受理

（昭和 61 年 12 月 5 日付けで（佐野産業名で）処分業（事業範囲変更）許可を受けた木くずの焼却炉（能力：2.5 t / 日、中島鉄工所焼却炉 NW- II）の処理能力の低下のため設置）

- ・ 許可内容（当該焼却炉にかかる内容のみ）
品目：木くず
能力：4.8 t / 日
- ・ 燃焼方式 乾溜式焼却炉（炉内堆積ガス化燃焼方式）。

平成 14 年 11 月 15 日 焼却施設の廃止

東側焼却炉



位置:
撮影日:



位置:
撮影日:



位置:
撮影日:



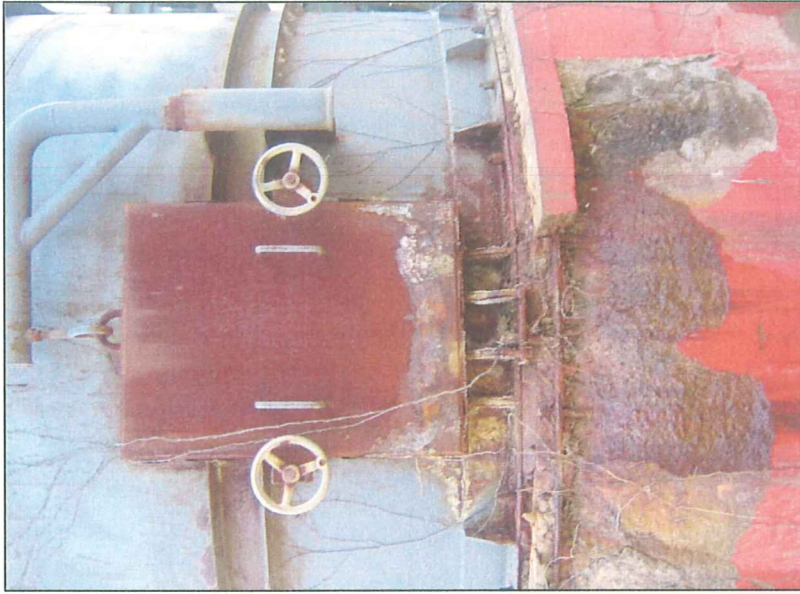
位置：
撮影日：



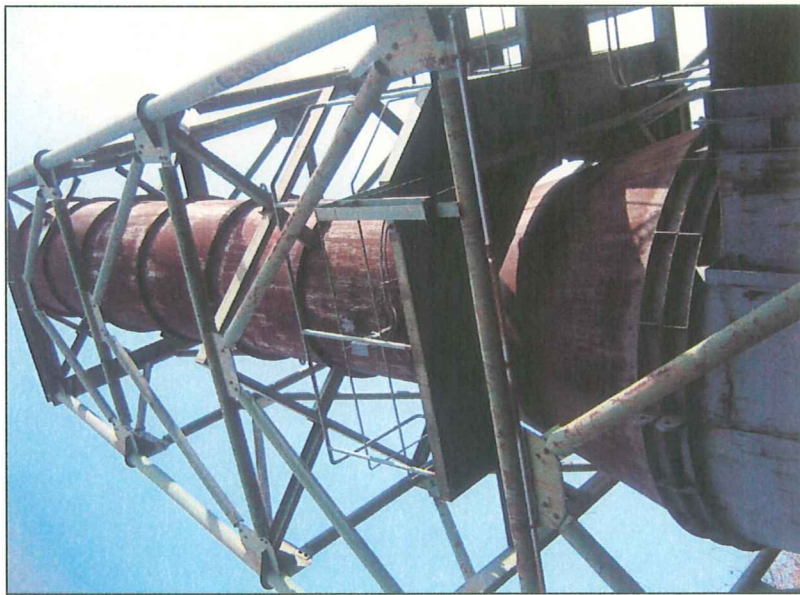
位置：
撮影日：



位置：
撮影日：



位置：
撮影日：



位置：
撮影日：

2. 南側焼却炉（キンセイ産業GB-3000W）

平成元年1月17日 産業廃棄物処分量の許可を取得

- 許可内容（当該焼却炉にかかる中間処理（焼却）により取得した内容のみ）
 - 品目：無害汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、がれき類、（ガラス陶磁器くず）
 - 能力：4.8 t / 日（木くずが主）
- 燃焼方法 乾溜ガス化燃焼方式
 - 2基の乾溜炉で80℃～260℃までガス化を推進しながら燃焼させ、気化された燃焼ガスを2次炉（バーナー炉）で完全燃焼させる構造。

最終許可状況 事業範囲変更許可

その後、数回の変更許可により処理品目および能力を変更した。

平成3年9月7日付けの変更許可では、油泥および汚泥の乾燥・焼却を目的とし、焼却炉からの燃焼ガスを利用したロータリーキルンを増設している。

（また、このころより24時間操業体制に伴う処理能力の増も見受けられる）

許可内容

① 普通産廃

（焼却）

品目：有機性汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、がれき類

能力：汚泥 8.1m³/日、廃油 6.0m³/日、廃酸 1.0m³/日、
廃アルカリ 1.0m³/日、廃プラスチック類 9.0 t / 日、木くず 14.4 t / 日、
その他の廃棄物 0.144 t / 日

（乾燥）

品目：無機性汚泥

能力：20.8m³/日、10.0m³/日

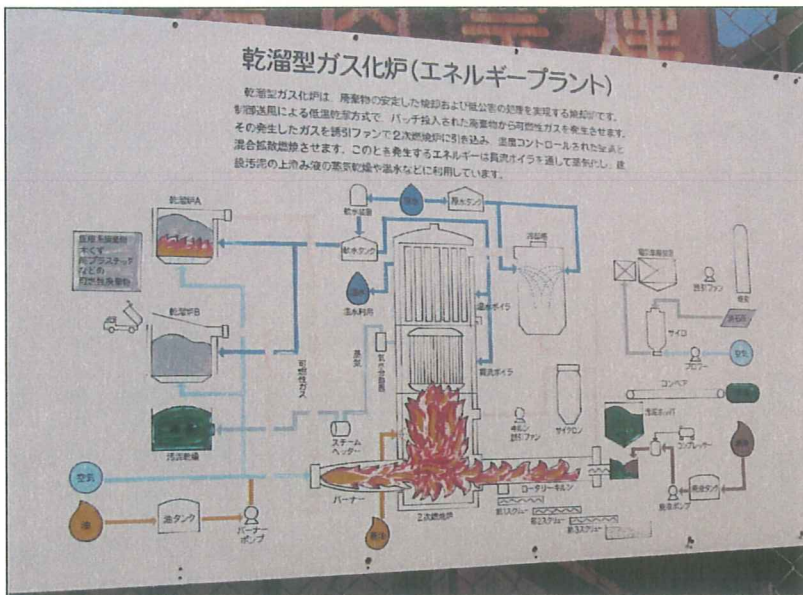
② 特管産廃

（焼却）

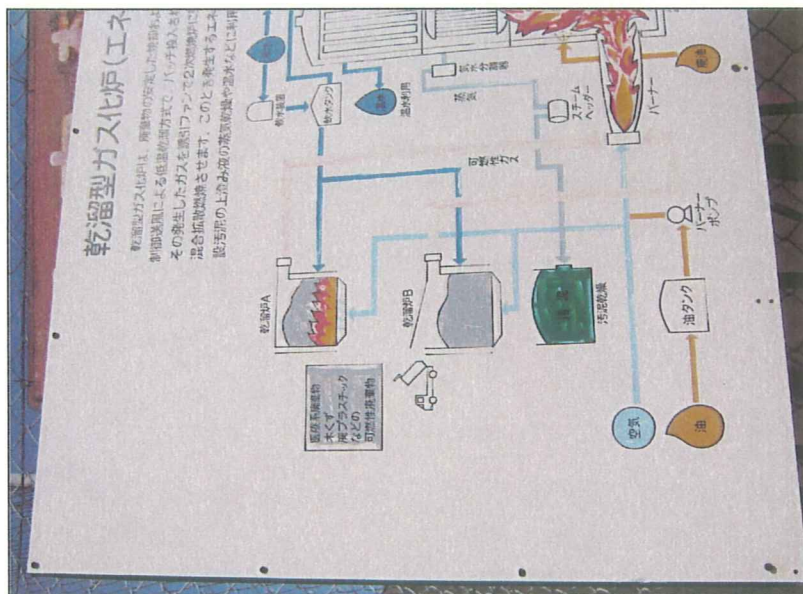
品目：汚泥（トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンを含むもの）、廃油、
廃酸（pH2.0以下）、廃アルカリ（pH12.5以上）、感染性廃棄物

能力：汚泥 8.1m³/日、廃油 6.0m³/日、廃酸 1.0m³/日、
廃アルカリ 1.0m³/日、感染性廃棄物 14.4 t / 日、

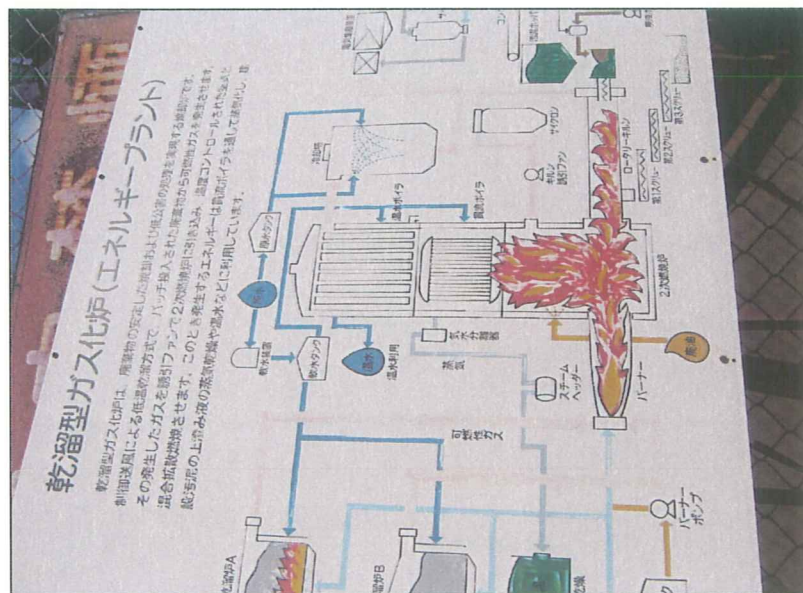
南側焼却炉



位置:
撮影日:



位置:
撮影日:



位置:
撮影日: